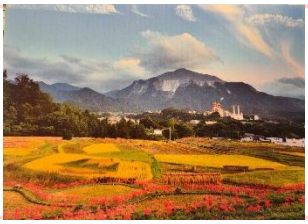
粕谷会長が以前投稿した「秩父の寺坂棚田」の秋の写真です。読者の鈴木さんは、写真が趣味で季節ごとに景色の良いところに出かけては写真を撮るのが趣味です。会長の記事を読んでこの写真を送ってくれました。背景の山は武甲山、煙突は秩父セメントの工場です。黄金の稲穂と曼殊沙華が美しい日本の田園風景です。

紅葉台  新聞

第２５５号
２０２６年
１０月９日
発行人：関谷　孝

しょうちゃんの　山が呼んでいる！



はじめまして。この新聞を読んで山好きの私も山の話をしてみたくなりました。

長野県松本市がふるさと。子どもの頃から北アルプスの山々は日常の風景。さして山に興味はありませんでした。しかし、東京に就職のため上京し、一人暮らしを始めると休日にすることが見つかりません。そんな時声を掛けてくれた先輩のＡさん。「今度山に行くんだけど一緒に行かない」「いいですね」と二つ返事。行った山がなんと中級者向けの３０００ｍ級の赤岳。それも日帰り。８時間も歩き、疲れ果てて帰宅。一気に山への興味関心は遠のきました。

そんな私が山にまた登ろうと思ったのか。しばらくして　悪いと思ったＡさんが「奥多摩の低山に行こう」と声を掛けてきました。「下山したらビールが美味しいよー」やはり「山より団子」。あの大変だった登山をすっかり忘れ「それならいい」とまた、返事をしてしまいました。…あれから４０数年。（きみまろ風に言えば）登山が自分の人生そのものと言えるほど毎月毎週のように行くようになりました。動機は不純でも楽しいが一番です。「エンジョイ　マイ　ライフ」「楽しい人生に乾杯！」と酒好きにもなり「おめでとうございます一石二鳥」。お陰で今思うと体が丈夫になりました。体が山を愛する体質になってしまいました。勿論山を登る苦しさも登り切った達成感よりももっと大切なことに気が付いたのです。若いときは一人登山が自由気ままでそれなりに楽しかった。今は登山サークルに入っていろんな人と出会って登山を楽しんでいます。下山してビールで乾杯していろんな話をすることがとても楽しいと気付きました。いろんな人と出会って話をするとなぜが嬉しいのです。「楽しいことに理由はありません」（あんこ先生の「好きに生きる」の話と同じ）



そうそう山の話。今までで良かったのは「霧ヶ峰」草原のツツジの群生。ヤナギランが心癒しました。「**池塘**」と言って湿原などにできる小さな池や沼がよく見られます。雨や雪解け水が溜ったもので、長い年月をかけ植物が積み重なり泥炭という地層が出来、水をためやすくなります。そこは高山植物や昆虫、カエルなどの住処にもなっていて、高山植物をよく見ることが出来ます。そこで出会った花々が美しかった。**火打山のサンカヨウ**は不思議な花でした。白く見える花が雨に濡れると透明に見えるのです。



その他には夜の山もいいですよ。高尾山の薬王院から見える星々。カメラで撮ると北極星を中心に星の輪が見えます。また、白樺湖のヒメボタルの群生は幻想的です。自然の雄大さに心ときめいてしまいます。これは実際に経験しないと分からないでしょう。冬の美ケ原の満天の星はお勧めです。人生に一度は見てほしいですね。星は何万年も前の光を届けます。悠久の時間を感じると自分がちっぽけでなんかくよくよしてもしょうがないと思えるのです。写真が趣味になってたくさん高山植物を撮りました。鉢伏山のレンゲツツジ。火打山のコバイケイソウ。などなど。私は花の名前を覚えるより「あー美しいなー」と心に湧き上がる思いが好きなのですね。そんな山の話に付き合ってくださり嬉しいです。





【文責　関谷】

粕谷和夫の観察日記



７月 28 日-29 日高峰高原・池の平の第４弾です。高峰温泉の庭の餌台に**シメ親子**が現れてビックリしました。シメは渡り鳥で八王子では「冬鳥」に分類されていますが、ここ高峰高原では繁殖していました。したがってここでは渡り鳥ではなく「留鳥」なのですね。親に餌をねだっている雛の姿が何とも可愛いらしいです。





７月 28 日-29 日高峰高原・池の平の５弾です。池の平湿原へは宿泊した高峰温泉のガイドが付き、マイクロバス利用の２時間周遊コースに参加しました。池の平湿原もシカの食害が進み、シカが食べない草だけが残るという現象が進んで植相の豊かさが少ないという印象を受けました。また、この時期はニッコウキスゲ、ハクサンシャクナゲが咲いているはずですが、今年は既に花が終わり、**コマクサ**も最後の１輪だけしかありませんでした。最後に岩の割れ目の中の**ヒカリゴケ**（写真下）に出合いました。



翅がボロボロになった**ベニシジミ**です。８月４日高月水田の田んぼで雑草のオモダカの花の蜜を吸っている蝶。猛暑の中で翅が痛んでも真剣に蜜を吸っている姿にしばし見とれました。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

粕谷会長が以前投稿した「秩父の寺坂棚田」の秋の写真です。読者の鈴木さんは、写真が趣味で季節ごとに景色の良いところに出かけては写真を撮るのが趣味です。会長の記事を読んでこの写真を送ってくれました。背景の山は武甲山、煙突は秩父セメントの工場です。黄金の稲穂と曼殊沙華が美しい日本の田園風景です。

両神山麓ダリア園に行ってみませんか

佐藤義隆さんは、モンゴルに桜の苗木を植え、モンゴル高専の設立と共に数学教育に貢献しました。その時のことを紅葉台新聞７８号にて紹介しました。

佐藤さんは読者からの情報として、ご友人が取り組んでいる「ダリア園」の情報を寄せてくださいましたので紹介したいと思います。（ここには載せきれないほどの写真がありましたがその一部です）

[両神山麓ダリア園だより sato　1　]



こんばんは。　秩父に関東で最大のダリア園があります。私の知人が関係しています。町からの支援はなく、毎年安い入場料だけに頼って運営されてます。９月１日から１１月３日まで「ダリアまつり」が開園されています。写真を送ってくれました。もし機会があれば訪れていただけると嬉しいです。（今年の夏の酷暑の中で、球のような汗をかきながら、数人の人たちだけで頑張って育てていたそうです。外での作業は大変ですね。）　[両神山麓ダリア園]　送っていただいた写真を転送しますね。お花を好きな人に拡散していただけると嬉しいです。そして訪れて頂ければうれしいです☺



[両神山麓ダリア園だより sato 2]

<ダリアの名前がおもしろい>

両神山麓ダリア園には 350 種類のダリアがあります。園の方のお話を聞いていると、それぞれの花の違いをよく見分け、名前もしっかり覚えておられることに感心します。ダリアと日々向き合い、一つ一つの花に愛情を注いでこられたからでしょう。ダリアの名前には興味深いものがたくさんあります。



「浮気心」「愛娘」「恋の予感」「紫式部」「天寿」……。名前を写真につけてあります。名前を眺めているだけでも、それぞれの花に込められた思いや物語が伝わってくるようです。花の美しさとともに、名前も楽しみながらご覧になったらいかがでしょう。



[両神山麓ダリア園だより sato　3　]



<ダリア園を支える人から>

今回は、両神山麓ダリア園で日々ダリアの世話をされている方にお話を伺いました。私たちは色とりどりの美しい花に目を奪われますが、その裏にはどのような思いと苦労があるのでしょうか。



―― ダリアのどんなところが好きですか。

「色も形も実にさまざまで、どの花にもそれぞれの魅力があります。本当にダリアが好きです。



ダリアとならいつまでも一緒にいられる気がします。

こうして関わり続けられることを幸せに感じています。」

―― 皆さんに特に見てほしいのはどんなところですか。

「ダリアの魅力は何と言ってもその多様さです。花の大きさはピンポン玉ほどの小さなものから、人の顔より大きなものまであります。花びらの形や色も本当にさまざまで、『これもダリアなの？』と驚くような品種もあります。ぜひ一輪一輪をじっくり観察していただきたいですね。」

―― 今年の夏の酷暑はいかがでしたか。

「ダリアは気温が 30 度を超えるような暑さが続くと成長が止まってしまいます。良い花を咲かせるためには、余分な芽を取り除く『芽欠き』などの作業が欠かせません。しかし今年は人手不足でさまざまな作業が重なって大変でした。 」

―― 今年は長雨にも見舞われましたね。



「植栽後は晴れと雨が程よく繰り返され、とても順調に育っていました。ところが８月中旬以降の長雨で葉が傷み始めました。雨が続くと薬剤散布も思うようにできません。ほぼ毎日カッパを着て泥だらけになりながらの作業でした。



昨年は猛暑と少雨で苦労しましたが、今年は長雨との闘いです。毎年自然条件が変わり、管理の難しさを感じています。それでも１０月上旬頃には見頃を迎えます。気温の下がった今のダリアは色鮮やかでとても美しいです。ぜひ多くの皆さんにダリアを見に来ていただければうれしいです。」

<Sato の感想>

両神山麓ダリア園には、350 種類、5,000 株のダリアが咲いています。今回のお話を伺い、美しく咲くダリアの陰に、酷暑や長雨の中でも毎日細やかな手入れが行われていることを知り、育てる方々の努力とダリアに対する深い愛情を感じました。

[ダリア園のご案内]

開園：9 月 1 日～11 月 3 日（9:00～16:30）
入園料 (環境整備協力金)：　500 円
場所：埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄 8240-2
ペット同伴可（大型犬は不可）

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。